

サレビア

特集…乳腺外科「マンモグラフィー装置」が
新しくなりました

Vol.
26



(乳腺外科医師と検診マンモグラフィ撮影 認定診療放射線技師)



ごあいさつ

地域に必要とされる役割を安定した経営のもと、
将来に向けて継続して提供していきます。

急速な少子高齢化、医療費削減、医師の働き方改革、消費税増税など、医療をとりまく環境は大変厳しいものとなっております。このような中、当院におきましては、地域に必要とされる役割を安定した経営のもと、将来に向けて継続して提供していくため、本年4月から地方公営企業法の規定の全部を適用することとなりました。これまでは財務規定のみでしたが、組織や職員の身分取扱いなど同法の全部の規定を適用するもので、病院の運営責任者として病院事業管理者を置き、その責任と判断のもと、医療環境の変化に主体性をもって迅速に対応してまいります。

さて今年度、当院におきましては、高齢化に伴う、がん・脳卒中・心筋梗塞など、重症で緊急性が高い疾患の増加や救急搬送患者の増加への対応として、ハイケアユニット20床の整備工事を行い、地域に求められる役割を果たすべく重症患者管理のさらなる充実を図ってまいります。

今後も近隣医療機関の諸先生方のご支援をいただきながら地域医療の充実と発展に努めて参る所存ですので、変わらぬご指導とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



岐阜市病院事業管理者

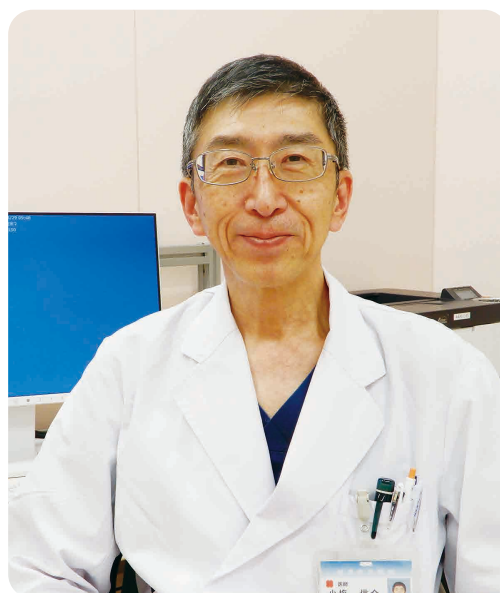
とみた えいいち
富田 栄一



患者さまにとってより良い医療機関を 目指したいと思います

日頃から地域医療連携についての格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび平成31年4月1日より高橋健 前部長に代わり、循環器内科部長の小塩が地域連携部長を務めさせていただくこととなりました。不慣れな点があり、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、宜しく願い申し上げます。

岐阜市民病院では、地域の先生方からの貴重なご助言を頂き、連携体制の強化・充実を図ってまいりました。先生方のご協力のおかげで、平成30年度は紹介率73%、逆紹介率は123%と地域医療支援病院として高い水準を維持する事が可能でした。しかし当院の病診連携が未だ多くの問題を抱えていることも十分自覚しております。ご紹介を頂く際の予約確定までの時間短縮を図り、ご連絡を頂いた際に医師への電話取り次ぎを円滑にするように努めて参ります。これらの改善を心掛けながら地域の先生方の信頼を得て、今後さらに患者さまの紹介や逆紹介、高度医療機器の共同利用、地域連携パスなどを推進して参りたいと考えています。また転院を受け入れて下さる病院や介護施設、在宅医療などとの連携をより密にして、患者さまにとってより良い医療機関を目指したいと思います。今後も、なお一層のご指導・ご協力をお願い申し上げます。



地域連携部長
地域連携室長

おじお しんすけ
小塩 信介

地域連携室では

平日は8:30～19:00、土曜日は9:00～13:00に予約受付を行っております。

地域連携室直通ダイヤル:058-253-0890

地域連携室 F A X :058-255-0504

時間外のご紹介について

時間外(平日17:00～翌朝8:30、土日祝日は終日)に当院救急外来にご紹介いただく場合は緊急患者ご紹介専用ダイヤルをご利用ください。当直看護師長経由で当直医が対応させていただきます。

緊急患者ご紹介専用ダイヤル:058-215-5599





FEATURE 特集

新しい装置の導入について

マンモグラフィ装置

マンモグラフィ装置(乳房用X線撮影装置)が 新しくなりました

当院では乳癌診断に使用されるマンモグラフィ装置を更新し、富士フィルムメディカル社製AMULET Innovality FDR MS-3500(以下AMULET)という最新型の撮影機器を導入し平成30年11月26日から新装置での検査を開始しています。

マンモグラフィ検査について

マンモグラフィ検査とは乳房を2枚の板で挟んで平らにのばした上でレントゲン写真を撮影する検査です。

このような状態でレントゲン写真を撮ると乳房内の様々な構造物が影絵のように重なった状態で画像となります。この中に乳腺構造とは異なるものがあると病変として検出できます。新しく導入されたマンモグラフィ装置は次のような点が改良されています。



乳腺外科部長

なかた たくみ

中田 琢巳

① 被ばく量の低減と画質の向上

AMULETでは線質補正技術・微細構造鮮明化処理などから画質が向上し、同じ2D画像の場合、現在よりも低線量で放射線被ばくを減らした検査が可能となりました。また、最新の機能であるトモシンセシス(3D撮影)で撮像することもできますので、従来の2D画像では乳腺の重なりから隠れて見えなかった病変も確認し易くなっています。(次ページ 図1, 2)



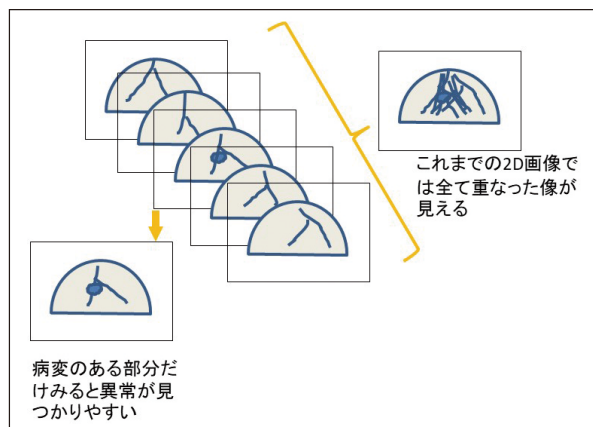


図1

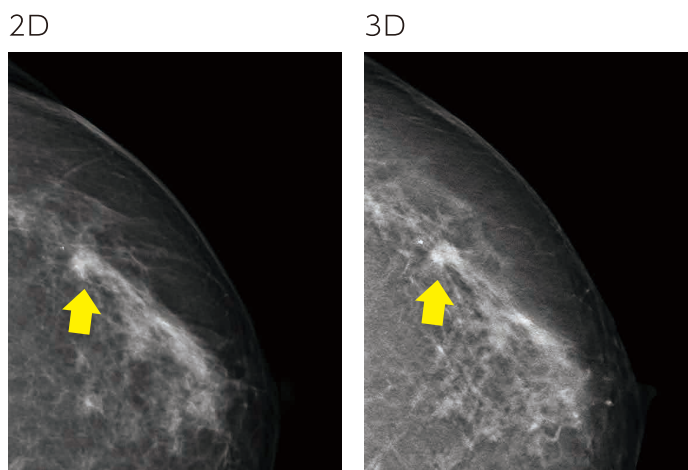


図2 2Dと比較して3Dでは腫瘤影や周囲のspiculaが明瞭に描出されている

② 疼痛の軽減

上述のようにマンモグラフィは乳房を薄く押しつぶして撮影しますので、圧迫による疼痛があります。AMULETでは圧迫板の改良により低い圧力で乳房全体を均一に圧迫できるようになり、また画質の向上から撮影時間も短くなりましたので、従来よりも撮影時の疼痛が軽減されています。

③ 確定診断のための検査

AMULETのマンモトーム生検では石灰化病変に対してより正確な鑑別が可能となり、淡い石灰化でも検査を行うことが可能になりました。そのため今までより正確な診断が可能となり、早期の治療につなげることができます。

検査態勢について

当院ではマンモグラフィ撮影のスタッフは全員女性で行っております。患者様にも比較的抵抗なく検査を受けていただけたらと思いますのでよろしくお願い申し上げます。



『こどもの便秘外来』始めます！

日時 毎週月曜日午前9時～12時(予約制)

非常勤医師 加藤充純先生(岐阜大学医学部附属病院小児外科講師)

「慢性機能性便秘症」では、
患児や保護者の精神的・身体的ストレスが大きく、
治療に難渋する傾向にあります。

小児の便秘症は、日常診療でしばしば遭遇する疾患です。そのほとんどは一時的なもので短期間の投薬で改善しますが、一部の症例では治療に抵抗性で長期化するものがあるかと思えます。このような「慢性機能性便秘症」では、患児や保護者の精神的・身体的ストレスが大きく、治療に難渋する傾向にあります。

慢性機能性便秘症の治療には多くの選択肢が必要です。薬物治療としては通常の内服薬や外用薬に加え、漢方薬を使用しますが、その組み合わせが重要となります。また食事療法や生活指導、トイレトレーニング等が排便改善の近道となることもあります。精神的な便秘も少なからずあり、その場合には診察時間を長く取る必要が出てきます。また、難治性の中には外科的治療を要する器質的疾患も含まれている可能性があります。

小児の慢性便秘症の治療でお困りの際には、是非ご相談下さい。

非常勤医師
(岐阜大学医学部附属病院
小児外科講師)

かとう たかずみ
加藤 充純

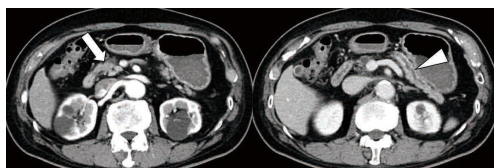


お知らせ - Information -

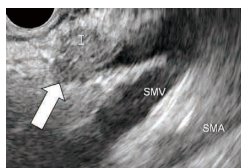
スタッフ紹介

腹部エコーで早期に 膵がんを発見していただくには

腹部エコー上、膵臓は一部しか描出されない事を経験します。一方、殆どの膵がんは主膵管閉塞を起こし、“主膵管拡張”が腫瘍よりも先に現れることがあります。膵全体が見えなくても、一部でも膵管が太いと感じられたら、追加検査をご検討頂く事が唯一の早期発見法です。当院は、超音波内視鏡（EUS）での精査を得意としており、鎮静下に無痛で確実な日帰り検査を行っています。心配な患者様がいらっしゃいましたら、簡単な紹介状で構いませんので、いつでもご連絡下さい。



腹部エコーやCTでは微小腫瘍（矢印）は不明瞭。主膵管拡張（矢頭）は確認できる。



EUSは微小膵癌（矢印）の指摘ができる。



消化器内科部医長

おくの みつる
奥野 充

消化器内科病棟に入院される全ての 患者さんのサポートを行っています。

平成28年より消化器内科病棟に理学療法士が専従配置され、病棟に入院される全ての患者さんに関わっています。入院中の安静により、手足の筋力が衰え、日常生活動作が低下することで、退院後に安全な生活を送れなくなるリスクを伴います。ADL訓練の実施だけでなく、入院直後からの病前の生活に関する情報収集や多職種カンファレンスへの参加、退院前・後訪問指導、そして退院前カンファレンスなどに参加しています。

患者さんをとりにまわすすべての人とのつながりを意識しながら、様々な方法でサポートを行っています。



ADL維持向上等体制加算
専従理学療法士

なかえ たつろう
中永 達朗



連携症例カンファレンスを開催しました

第33回

第33回は、40歳代のがん末期の患者さんで、「家に帰りたい」という患者の意思を支援し、自宅への退院を決定しました。高齢のご両親が介護者であり、「両親に下の世話をさせたくない」という患者さんの気持ちに添って、訪問看護や訪問介護の介入により患者さんの希望を叶え、ご両親にとっては、訪問看護師さんが心の支えになり自宅で最期を迎えられました。患者さんやご家族の不安や心配事を取り除く提案をして、在宅療養へ踏み出せるよう支えることが医療者の役割であると考えました。



第34回



第34回は、糖尿病コントロールにて入院された親子の患者さんで、新たに介護保険を申請し、地域包括支援センター・岐阜市社会福祉協議会のご協力により在宅生活に戻られました。病院側と訪問看護師さんが情報を共有し、在宅での様子や問題点を理解し、病院のスタッフも退院後の生活をイメージして関わる事の必要性を再確認しました。

連携症例カンファレンスを開催することで、病院スタッフの在宅療養への関心が高まり、退院後の生活を見据えた支援ができるのではないかと考えます。また、患者さんを取り囲む関係者が一堂に会して、「Face to Face」の関係になることは患者さん・地域のために有意義なことと考えます。

中央放射線部からのご案内

MRI装置を更新しました(2019年3月稼働)

これまで使用していた1.5TMRI装置2台のうち1台を3TMRI装置に更新しました。

3TMRI装置では、高画質な画像や快適な検査環境を提供できるほか、肝臓の線維化を調べることができる最新技術(MRエラストグラフィ)も搭載しています。

検査に際しては、ご依頼いただいた内容により中央放射線部で1.5T装置、3T装置への振り分けを行わせていただきます。

*検査費用に係る患者さんの負担額については、下記のように異なります。

1.5T MRI装置 1,330点
3T MRI装置 1,600点

その他、コンピュータ断層診断料のほか造影剤使用加算(造影剤を使用した場合のみ)、画像診断管理加算、電子画像管理加算などが所定点数に加算されます。



中央放射線部 MRI検査室